

発展途上諸国の農村開発

山田睦男 編

1999

J C A S連携研究成果報告は、国立民族学博物館地域研究企画交流センターを中心に推進している連携研究にもとづく成果を公開する刊行物である。連携研究は、国内の諸研究機関との協議のうえでおこなう共同研究プロジェクトを意味する。なお、この成果報告には、地域研究企画交流センターが主催した共同研究の成果も含まれている。

編集委員会名簿

刊行物審査 委員会委員長	石 毛 直 道	(国立民族学博物館長)
	杉 田 繁 治	(国立民族学博物館 副館長)
	立 川 武 藏	(国立民族学博物館 民族社会研究部長)
	熊 倉 功 夫	(国立民族学博物館 民族文化研究部長)
	藤 井 龍 彦	(国立民族学博物館 博物館民族学研究部長)
	端 信 行	(国立民族学博物館 先端民族研究部長)
	小 山 修 三	(国立民族学博物館 民族学研究開発センター長)
	松 原 正 毅	(地域研究企画交流センター長)
	松 原 正 毅	(地域研究企画交流センター長)
	編 集 長	
編 集 委 員	浅 野 透	(京大生態学研究センター 教授)
	大 芝 亮	(一橋大学法学部 教授)
	大 塚 和 夫	(東京都立大学人文学部 助教授)
	遅野井 茂 雄	(南山大学外国語学部 教授)
	加 藤 博	(一橋大学大学院経済学研究科 教授)
	川 勝 平 太	(国際日本文化研究センター研究部 教授)
	木 村 喜 博	(東北大学大学院国際文化研究科 教授)
	後 藤 明	(東京大学東洋文化研究所 教授)
	須 藤 健 一	(神戸大学国際文化学部 教授)
	立 本 成 文	(京都大学東南アジア研究センター 教授)
	内 藤 雅 雄	(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授)
	中 川 文 雄	(城西国際大学人文学部 教授)
	古 川 久 雄	(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)
	古 田 元 夫	(東京大学大学院総合文化研究科 教授)
	山 田 陽 一	(広島大学大学院国際協力研究科 助教授)
	山 本 真 鳥	(法政大学経済学部 教授)
	山 田 睦 男	(地域研究企画交流センター 教授)
	吉 田 集 而	(地域研究企画交流センター 教授)
	押 川 文 子	(地域研究企画交流センター 教授)
	白 杵 陽	(地域研究企画交流センター 助教授)
	大津留 智恵子	(地域研究企画交流センター 助教授)
	阿 部 健 一	(地域研究企画交流センター 助教授)

[平成11年4月1日現在]

JCAS 連携研究成果報告 1

発展途上諸国の農村開発

山田睦男 編

1999

JCAS 連携研究成果報告 1

発展途上諸国の農村開発

目 次

序 文	i
発展途上諸国の農村開発	山田 睦男..... 1
第Ⅰ部 農村開発の理論と実践	
農村開発論の展開	水野 正己..... 5
バングラデシュ農村開発実験 ——関わりの作法——	海田 能宏..... 31
第Ⅱ部 農地改革と農村開発	
新自由主義経済と農地改革 ——ラテンアメリカの場合——	石井 章..... 47
フィリピン国民国家における農地改革と農村開発レスリー・パウゾン原著 山田 睦男抄訳.....	73
第Ⅲ部 農村の伝統と合理性	
コンゴの農村開発 ——政策と社会の対応——	武内 進一.....103
新たな作物の導入による在来農業の変容 ——タンザニア、ザンビアの事例——	高村 泰雄.....125
西スマトラ州パダン高原高地湖周辺域の土地利用変化	中野 和敬.....155
高度成長下ジャワ農村の変容 ——インドネシア天水農業の事例——	横山 繁樹.....179
第Ⅳ部 貧困とエスニシティ	
アルゼンチンにおける貧困問題 ——ブエノスアイレス州とトゥクマン州の事例——	宇佐見耕一.....199
農村と都市のエスニシティ ——グアテマラのインディオとラディーノ——	小泉 潤二.....217
執筆者一覧	225

JCAS AREA STUDIES RESEARCH REPORTS 1

Rural Development in Developing Countries

Introduction	i
YAMADA Mutsuo Rural Development in Developing Countries	1
I . Theory and Practice of Rural Development	
MIZUNO Masami The Rise of Rural Development in the Third World Countries	5
KAIDA Yoshihiro Bangladesh Rural Development Experiment: My Way of Participation	31
II . Agrarian Reform and Rural Development	
ISHII Akira Neoliberal Economic Policy and Agrarian Reform: Cases of Latin America	47
Leslie E. Bauzon (Abridged translation into Japanese: YAMADA Mutsuo) Agrarian Reform, Rural Development and the Philippine Nation State	73
III . Rural Tradition and Rationality	
TAKEUCHI Shin'ichi Rural Development in the Republic of the Congo: Policy and the Society	103
TAKAMURA Y. Tomoki Changing Process of Traditional Agriculture with Innovating New Cropping Systems in East Africa: Case Studies in Tanzania and Zambia	125
NAKANO Kazutaka Dynamics of Land Use of the Region around Highland Lakes in the Padang Highlands, the Province of West Sumatra	155
YOKOYAMA Shigeki Rural Transformation under Rapid Economic Growth: Case of Rainfed Village in West Java, Indonesia	179
IV . Poverty and Ethnicity	
USAMI Koichi Poverty in Argentina: The Cases of Buenos Aires and Tucuman	199
KOIZUMI Junji Rural and Urban Ethnicity: <i>Indios</i> and <i>Ladinos</i> of Guatemala	217
List of Authors	225

序 文

国立民族学博物館地域研究企画交流センターは、発足以来その事業の一環として、毎年連携研究約10件と共同研究数件の研究プロジェクト（通例期間3年）を国内の主要な地域研究機関および地域研究者と協力して進めている。連携研究（英訳 *interinstitutional research project*）は、本センターと外部の地域研究機関との間の共同事業として、内外2人の代表者をたてて、行っており、今のところ国立機関の行う研究組織としては、本センター独自の方式であると思われる。共同研究（英訳 *joint research project*）は、本センターの研究者が代表者となり、センター内外の研究者を集めて行っている。これらの研究プロジェクトの成果は、今後「連携研究成果報告」として逐次刊行されることになっている。

本書は、平成6年度から8年度にかけて行われた共同研究「農村開発の比較研究－中央アメリカ、東南アジアとアフリカー」(代表者山田睦男)の成果であり、連携研究成果報告シリーズの第1号として刊行されることになった。

農村開発というテーマが選ばれたのは、本センターの研究対象地域のなかでも、国内で研究の遅れている発展途上諸国に共通した問題の一つであるという認識からであった。対象地域は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの熱帯諸地域であり、発展途上地域の中でも商業的農業が重要性をもち、農村社会の重要性が高いと思われる国々が選ばれた。現実には、すべての事例を網羅するというよりは、研究会に参加していただけた方々にすでに関心地域で実施した調査の成果を利用するかたちで執筆していただいた。

本書に取り上げた事例は、きわめて限られているが、今日の変化しつつある世界の現実の一部であり、我が国の学会やジャーナリズムにおいて取り上げられることの少ない発展途上諸国のなかでも、大都市に比べてさらに注目されることの少ない農村開発の実態、農耕システムの変化、それに関連した農村の変容などを扱っている。本書が、今日の世界の複雑な総体を理解しようとする知的な努力を刺激することに貢献することができれば、この研究会の参加者一同の望外の喜びである。

最後に、研究会代表者として、研究会に参加され、本書のために執筆をしていただいた各位に心から感謝いたしたい。また、フィリピン大学で教鞭をとるバウゾン博士は、筑波大学外国人教師として滞日中に代表者の求めに応じ本研究会で特別報告をされ、帰国後ご多忙にもかかわらず寄稿していただいた。あらためて、博士のご好意に感謝の意を表したい。同氏の英文原稿は、編者が抄訳したが、ラテン・アメリカ史を専門としてはいるものの、フィリピン事情にうといため誤りをおかすことをおそれ、本センター COE 研究員石井正子女史に査読をお願いした。しかし、最終的な責任が抄訳者にあることはいうまでもない。

平成11年7月末日 編者